

IVRC2011
開催報告書

日本バーチャルリアリティ学会

目次

【IVRC2011 開催報告】

巻頭言 「実行委員長から:復興への力の源泉たらん」

1. 運営組織	3
2. コンテストの概要	3
3. コンテストの詳細	4
4. IVRC 作品のその後の活躍について.....	5
5. 審査について	9
6. 審査結果	10
7. 開催データ	11
8. 協力	11
9. IVRC 実行委員会 / 企画委員会	12

2011(第19回 国際学生対抗バーチャルリアリティコンテスト)開催報告

実行委員長から:復興への力の源泉たらん

館 暲 (IVRC 実行委員長)

慶應義塾大学

今年で第19回を迎える「国際学生対抗バーチャルリアリティコンテスト (IVRC: International collegiate Virtual Reality Contest)の準備のさなかの3月11日に東日本大震災が発生し、その後、原子力発電所の大惨事を引き、日本全体が第二次世界大戦以来の極めて深刻な深い痛手を被る状況となった。第二次世界大戦後の65年余、私たちの先人先輩、私たち団塊世代、そして、私たちの後進たちが、営々として努力を続け、焼け野原から復旧し復興し繁栄をとげた日本が一瞬にして崩れ落ちる瞬間であった。一時は、コンテストを行うことをも憚る思いに駆られたが、熟考するにつれ、この窮地を救うのも、我々世代であり、後輩世代であり、そして何よりも我々に続くこれからの若い世代であることを思うとき、むしろ、益々このコンテストの果たす役割が増していると大悟した。

IVRCが、バーチャルリアリティが未知数の技術であった1993年に、「学生の、学生による、学生のための」コンテストとして発足したことから分かるように、学生たちはこのコンテストを通して、未知のものに向かって、自ら調べ、自ら考え、自ら挑戦する力を養ってゆける。具体的には、学生の自由な発想から始まり、それを企画書として具現化し、さらにプレゼンテーションにより制作費援助を勝ち取り、当初のアイデアを実現する。一方、コンテストで活躍した若者が、次回以降のコンテストの運営に企画委員として参加する。IVRCはこういったプロセスを通じ、独創力、具現力、発表力、実行力、さらにマネジメント力を備えた、将来の有為な技術者・研究者・起業家・経営者・芸術家を育てることを狙いとしており、実際、このコンテストの出身者が、現在、日本の働き盛りの世代として、学界、産業界、芸術界で活躍し始めている。これを、更に加速してゆくことが、間違いなく我が国の復興と新たな繁栄のための源流となるとの確信を強く感じている。

さて、このIVRCが「国際的」な大会として大いに発展しており、コンテスト参加者が国際力を十分に磨くに至っていることは、今までにも毎回のよう報告している。例えば、米国SIGGRAPHでは、総合優勝(グランプリ)作品を中心としてEtechに作品が2002年から連続して選ばれており、その水準の高さは世界的に知られている。そのこともあり、IVRCのBOF (Birds Of a Feather)は、今ではSIGGRAPHの恒例となった。本年もバンクーバーで2011年8月7日11時から開催したが、部屋に入りきれないほど多くの参加者を擁する盛況な会となった。

フランスとの関係は2003年以来、良好に保たれている。IVRCとLaval Virtualとの国際協定「Agreement on International Cooperation in Virtual Reality and Augmented Reality」は2009年に更新され、3期目にあたる。フランス大会での優秀作品を日本がIVRC Award受賞作として選定し日本に招待する一方、日本の本大会での優秀作品をフランスがLaval Award受賞作として選定してフランスに招待する活動が、持続している。今年も2011年4月8日にフランスのLaval Virtualに於ける決勝大会招待作品(IVRC賞)が決定し、そのフランスチームが決勝大会に訪日した。

2010年に、米国カーネギーメロン大学(CMU)のETC (Entertainment Technology Center) との国際協定「Agreement on International Cooperation in Virtual Reality and Entertainment Technology」が結ばれ、それに基づき今年も、CMU内でIVRCプロジェクトチームが選ばれ、そのプロジェクトの初期段階で企画書とプレゼンテーションビデオがIVRCに提出され、その結果、CMU/ETCのチームが決勝大会に来日した。

今年のIVRC決勝大会は、2011年10月8日(土)と9日(日)、日本科学未来館1階において開催された。詳細は、コンテスト概要と審査委員長報告に譲るが、今年も、レベルの高い作品が、バーチャルリアリティの3要素である「3次元の空間性」、「実時間のインタラクション」、「自己投射性」の視点で競われた。

この大会に出場することが、野球に例えるならば、まさに甲子園出場にあたるということは、今までにも繰り返し述べた。従って、本大会に出場した学生は、それだけで、その才能が保証されている。また、出場自身が大変な荣誉であり、出場の栄光が参加者全員の今後の人生の良き糧となってゆく。ある期間、自分たちの抱いた夢を仲間と共有し、その夢の実現にむけて時には寝食を忘れ打ち込む、そういった類稀なコミュニティに属した仲間は、国を超え、そして世代を超えて分かり合える仲間となる。同じことは、参加した学生だけでなく、IVRCを成功に導くため労力と知力を惜しまず協力した若い企画委員についても言える。彼らはこのIVRCを礎とし、これから若き研究者として、また技術者、芸術家として、あるいは起業家や経営者として国際的に羽ばたき活躍してゆくであろう。そのことが、とりもなおさず、時間は掛かっても本質的に、日本を現在の窮地から救う源泉となるのだ。資源もエネルギーもない我が国では、活力の源は、「卓越した人材」であるがゆえに。

1. 運営組織

主催:

日本バーチャルリアリティ学会 IVRC 実行委員会
科学技術振興機構 CREST「さわれる情報環境」プロジェクト

後援:

文部科学省
経済産業省
フランス大使館科学技術部

協力:

日本科学未来館
慶應義塾大学国際バーチャルリアリティ研究センター

運営組織:

企画・審査方式の策定・募集・広報・連絡・会場設営といったコンテストの運営は、日本バーチャルリアリティ学会に置かれている、IVRC 実行委員会/企画委員会により行われた。

2. コンテストの概要

書類審査	2011年5月27日(応募締切)	公式 Web サイト上 (http://ivrc.net/2011/call.html)
プレゼンテーション審査	2011年7月2日	東京大学 工学部2号館4階241講義室
ビデオ審査	2011年8月31日	公式 Web サイト上 (http://ivrc.net/2011/call/judge/video.html)
決勝大会	2011年10月8-9日	日本科学未来館 1階企画展示ゾーン a

応募資格:

「VR/インタラクティブ作品」を実現できる能力・熱意をもつ学生を主体としたチームであること。

賞:

総合優勝 Grand Prix
日本 VR 学会賞
岐阜 VR 大賞
Laval Virtual Award
川上記念特別賞
審査員特別賞
未来観客賞
DCEXPO/ConTEX 賞
企業協賛賞(順不同) - ソリッドレイ研究所賞/クリスティ・デジタル・システムズ賞

3. コンテストの詳細

全体ディレクター: 古川正紘(慶應義塾大学)

同年3月に起きた東日本大震災の影響を受け、開催場所として予定していた日本科学未来館が長期的に一時閉館になるという非常事態を経て、本年度のIVRCは幕を開けた。しかし震災後の混乱にも関わらず、IVRCは過去最大の応募数86件を記録する。決勝大会出場枠が10チームのため、これは競争率が約10倍に届くほどの狭き門であったことを意味する。途中のプレゼンテーション審査では、震災を踏まえた質疑も少なくなく、本年度ならではの作品が選ばれたという印象を受けた。

そして決勝大会は、幸いにも6月に営業を再開した日本科学未来館にて、平成23年10月8日(土)~9日(日)の2日間にわたり開催された。本年度の特色はIVRCを含め3行事の同時併催を行なったこと、また新たな取組みとして協賛企業と出場学生との交流会を実施したことにある。併催行事は、科学技術振興機構CREST「さわれる情報環境」プロジェクト・第1回シンポジウムHAPTIC MEDIA 2011及び情報処理学会エンタテインメントコンピューティング研究会主催のエンタテインメントコンピューティング2011(EC2011)である。特に全3行事のデモ会場を未来館1階の1室に集約させ一般公開としたことで、併催行事の垣根を超えた活発な議論も生む機会となった。国際色は変わらず豊かで、昨年度から提携を開始しているカーネギーメロン大学ETC、および、2004年から提携を続けているLaval Virtualから1作品が海外作品として決勝大会に参加し、大会を盛り上げた。

<書類審査>

ディレクター: 三武裕玄(東京工業大学)

書類審査は、IVRC参加チームにとって最初の関門となる。参加チームにはアイデアと説得力のある企画書が求められ、この手助けとなるようIVRCでは過去の優れた企画書類を、チームの許諾を得て公開している。本年はさらに最近の優秀作品の企画書類を加え、参考資料の拡充を行った。

5月27日を締切として公式ウェブサイト上にて行われた企画募集は、応募総数86件を数え過去最多となった。応募数はここ数年増加し続けており、今回も昨年に続く最多記録更新である。

応募書類の審査は例年通り、ウェブ審査と審査会議により行われた。ウェブ審査では1企画あたり3名以上の審査員により応募された全企画書類をウェブサイト上で審査し、5段階の評点およびコメントによる評価を行った。ウェブ審査の結果に基づき、審査会議により通過した25チームのうち24件の作品がプレゼンテーション審査へと選出された。

<プレゼンテーション審査>

ディレクター: 佐藤克成(慶應義塾大学)

プレゼンテーション審査は、7月2日に東京大学本郷キャンパスの工学部2号館で開催された。書類審査を通過した25チームのうち24チームが、決勝大会進出を目指し、9名の審査委員の前でプレゼンテーションを行った。

参加チームは、試作品の実演や漫才など工夫を凝らした発表を行い、審査委員との熱い議論を通して、企画の面白さや新規性、技術力、芸術性をアピールした。本年の審査では、1チームあたり発表150秒・質疑応答150秒と例年よりも長い時間を設定したことで、発表内容や議論がより充実したものとなった。

厳しい審査の結果、9チームが選出され、ビデオ審査へと駒を進めた。

<ビデオ審査>

ディレクター: 三武裕玄(東京工業大学)

ビデオ審査は、決勝大会で確実に作品の体験展示が可能となるよう各チームの制作進捗状況を確認する目的で行うと同時に、審査後に動画をウェブサイト上で公開する事で決勝大会への注目を高める効果も大きい。本年は大会前から作品紹介動画がtwitterやニュースサイトで話題になるなど、盛り上がりを見せた。

審査では、大会の約1ヶ月前である8月31日までに作品紹介動画の提出を求めた。制作中の実機を用いた作品体験の説明を含めることが要件となっており、各チームは作品の最低限の要素を完成させることが求められる。提出された動画を審査委員・実行委員・企画委員が閲覧し、展示の実現に不安がないか3段階で評価するとともに、作品改善のアドバイスを示唆した。審査結果及び作品へのアドバイスは、審査終了後に各チームへすみやかにフィードバックされた。

今回の審査では、ビデオ審査開始以来初めて展示実現を不安視する評価が皆無となり、進捗不良チームに対して実施予定であった委員による実地調査は行われなかった。決勝大会では、これを裏付けるように各作品とも順調に稼働を行っていた。

<決勝大会>

ディレクター:家室証(東京大学)

今年度のIVRC決勝大会は10月8日と9日の2日間に渡り、日本科学未来館1階企画展示ゾーンaにおいて開催された。同会場では慶應義塾大学館研究室のCREST研究の成果報告会であるHaptic Media 2011の作品展示と、EC2011のデモセッションが同時に開催されており、2日間で2400名以上の来場者が訪れた。各ステージを勝ち上がった9作品にLaval VirtualとCMUからの招待作品を加えた計11作品が展示を通じて競い合った結果、特に完成度の高かったチームアシカくん(慶應義塾大学)の『ペタンコ麺棒』が総合優勝の座に輝いた。身の回りの物体の三次元形状をモデル化して麺棒型デバイスで潰す感覚を楽しめる同作品は、Laval Virtual Awardと来場者の投票により選出される未来観客賞も勝ち取り、計3冠という偉業を成し遂げた。また、協賛企業様からの特別賞として、ソリッドレイ研究所賞には第3位である岐阜VR大賞にも輝いたチームmoulin(東京大学)の『ミライデア』が、クリスティ・デジタル・システムズ賞にはチーム影ケバブ(神奈川工科大学)の『I Shadow』が、それぞれ選出された。来場者を楽しませようという各チームの取り組みが実を結び、会場は終日賑やかな雰囲気に満たされていた。

4. IVRC 作品のその後の活躍について

【報道・受賞】

作品名: ペタンコ麺棒

🌐 機関: ITmedia

日時: 2011年10月20日

記事: やかんも車もつぶせちゃう!? 触覚VR「ペタンコ麺棒」は快感である

URL: <http://nlab.itmedia.co.jp/nl/articles/1110/20/news057.html>

🌐 機関: ファミ通.com

日時: 2011年10月20日

記事: 主役は3D映像とKinect? スゴすぎる未来技術も——デジタルコンテンツ EXPO 2011 が開催

URL: <http://www.famitsu.com/news/201110/20052295.html>

🌐 機関: テレビ東京

番組名: ワールドビジネスサテライト

放送日: 2011年10月20日

URL: <http://www.tv-tokyo.co.jp/wbs/>

🌐 機関: 日本テレビ

番組名: ZIP!

放送日: 2011年10月21日

URL: <http://www.ntv.co.jp/zip/>

🌐 機関: 週刊アスキーPLUS

日時: 2011年10月22日

記事: 世界初“球形飛行物体”や人間以上の拍手ロボ! 映像で見る『DC EXPO 2011』

URL(HPの場合): <http://weekly.ascii.jp/elem/000/000/062/62569/>

作品名: HOJI*HOJI

- 🌐 機関: Make:Japan
日時: 2011年9月29日
記事: 穴があったらほじりたい
URL: http://jp.makezine.com/blog/2011/09/hoji_hoji.html

- 🌐 機関: ねとらぼ
日時: 2011年10月20日
記事: デジタルコンテンツ EXPO 2011:指でシリコンゲルの壁をつんつんすると…… 穴デバイス「HOJI*HOJI」
URL: <http://nlab.itmedia.co.jp/nl/articles/1110/20/news078.html>

- 🌐 機関: Yahoo!ニュース(ねとらぼ)
日時: 2011年10月20日
記事: デジタルコンテンツ EXPO 2011:指でシリコンゲルの壁をつんつんすると…… 穴デバイス「HOJI*HOJI」
URL: http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20111020-00000066-it_nlab-sci

- 🌐 機関名: ロボコンマガジン
日時: 2011年10月24日
記事: DCEXPO2011に行ってきました
URL: <http://www.ohmsha.co.jp/robocon/archive/2011/10/dc-expo2011.html>

作品名: I Shadow

- 🌐 機関: ドイツ第二テレビ「ZDF」
日時: 2011年10月18日
記事: Die Pixelmacher auf der Tokyo Game Show
URL1: <http://www.media.kanagawa-it.ac.jp/news/2011/20111014ZDF>
URL2:
<http://www.zdf.de/ZDFmediathek/beitrag/video/1465526/Die-Pixelmacher-auf-der-Tokyo-Game-Show>

作品名: 猫かぶる

- 🌐 日時: 2011年11月14日
記事: DIGIINFO
URL: <http://jp.diginfo.tv/v/11-0224-r-jp.php>

- 🌐 機関: テレビ東京
日時: 2011年12月1日
番組名: とれたま
URL: http://www.tv-tokyo.co.jp/mv/wbs/trend_tamago/post_11744/

- 🌐 機関: フジテレビ
日時: 2012年1月17日
番組名: めざましテレビ
URL: <http://datazoo.jp/w/%E7%8C%AB%E3%81%8B%E3%81%B6%E3%82%8B/9373721>

作品名: エクストリーム缶潰し

- 🌐 機関: 北國新聞
日時: 2011年9月30日
記事: ゲーム感覚で空き缶つぶし

🌐 機関: NHK
番組名: コネクト
放送日: 2011年11月4日
URL: <http://www.nhk.or.jp/connect/#focus>

🌐 機関: 日本テレビ
番組名: スッキリ!!
放送日: 2011年11月21日

作品名: INAMO

🌐 コンテスト名: ICSR2011 2nd Robot Design Competition
作品名: INAMO - Towards a Future Imaginery Navigator
受賞: 2nd prize
URL: <http://www.icsr2011.org/competition.html>

作品名: Paranga (IVRC2010 出場作品)

🌐 日時: 2012年1月6日
記事: E-READER LETS YOU PHYSICALLY TURN THE PAGE
A new device gives you the best of both worlds -- an e-reader and a page-turner.
URL: <http://news.discovery.com/tech/ebook-paranga-010612.html>

作品名: TagCandy (IVRC2010 出場作品)

🌐 受賞: アジアデジタルアート大賞展 入賞(インタラクティブアート部門)
URL: http://adaa.jp/2011/j/12_list.html

作品名: Sound Forest (IVRC2010 出場作品)

🌐 受賞: アジアデジタルアート大賞展 入賞(インタラクティブアート部門)
URL: http://adaa.jp/2011/j/12_list.html

【発表・展示】

Laval Virtual ReVolution 2011

🌐 日時: 2011年4月6-10日
場所: LAVAL (France), Salle Polyvalente, place de Hercé
展示: Sense-Roid(IVRC2010 優勝作品)
HINOCO(IVRC2010 出場作品)

芸術展示 NICOGRAPH

🌐 日時: 2011年6月11日
場所: 神奈川工科大学
発表: ポスターセッション TagCandy(IVRC2010 出場作品)

SIGGRAPH2011

🌐 日時: 2011年8月9-11日
場所: VANCOUVER CONVENTION CENTRE
展示: Mummy Tummy(IVRC2009 優勝作品)

エンターテインメントコンピューティング 2011

🌐 日時: 2011年9月7-9日
場所: 日本科学未来館
発表: 口頭発表(OS) HOJI*HOJI
I Shadow
エクストリーム缶潰し

第16回バーチャルリアリティ学会大会

- 📍 日時: 2011年9月20-22日
場所: 公立はこだて未来大学
発表: 口頭発表 Sense-Roid (IVRC2010 優勝作品)
Mummy Tummy (IVRC2009 優勝作品)
La fleche de l'odeur (IVRC2008 出場作品)

DESITAL CONTENT EXPO 2011

- 📍 日時: 2011年10月20-22日
場所: 日本科学未来館
展示: ペタンコ麵棒
HOJJI*HOJI
ミライデア

第4回横幹連合コンファレンス

- 📍 日時: 2011年11月28-29日
場所: 石川ハイテク交流センター
発表: 口頭発表 ダイラタノシー (IVRC2009 出場作品)
虫 How? (IVRC2007 出場作品)
KOBITO (IVRC2004 出場作品)
Conspiratio (IVRC2004 出場作品)

< SIGGRAPH 2011 展示報告 >

2010年総合優勝 Sense-Roid

高橋宣裕(電気通信大学)

SIGGRAPH2011は、2011年8月7日から8月11日の5日間に渡り、カナダ・バンクーバーのVancouver Convention Centre に於いて開催された。SIGGRAPHは例年アメリカで開催されるコンピュータグラフィクスとインタラクティブ技術に関する世界最大の国際会議であるが、今年は初のカナダでの開催となった。毎年の参加者が口を揃えるのはこれまでと比較した会議全体の規模の縮小だが、初参加である筆者としてはそれを感じさせない活気を感じた。IVRC 総合優勝作品が例年出展するEmerging Technologiesは、Art Galleryと同会場の隣り合わせにブースが設けられた。必然的に互いの展示を見て回ることとなった来場者にとっては、最先端のインタラクティブ技術と独特な芸術の世界観に浸ることができるものとなった。

今年のEmerging Technologiesの展示発表は23件であり、そのうち日本からの展示発表は13件と全体の半数以上を占め、例年通り強い存在感を示した。参加者の立場として展示全体で特筆すべきは“Emerging”(新生)の域を超えて外観を含めた完成度が非常に高いこと、文字通り全く新しい研究の芽を目の当たりにすることができることである。今後のEmerging Technologiesへの展示を志すIVRC作品開発チームにとっては、自らを一学生と考えるのではなく自らが最先端の研究者の一員あるいは唯一無二の表現者であるという意識を持って望むに相応しい舞台が用意されていると考えて良い。SIGGRAPH2012は、アメリカ・ロサンゼルスにて開催される予定である。

<Laval Virtual 2011 展示報告>

2010年Laval Virtual Award じょりじょり

石原のぞみ(大阪大学)

Laval Virtualは、パリからTGVで西に2時間程の距離にあるフランスの地方都市Lavalで毎年開催されるVRデモンストレーションイベントである。今年で13回目の開催となり、開催期間は2011年4月6日から4月10日であった。Laval Virtualは欧州最大のVRイベントとして世界的に有名であり、毎年多くの研究チーム・企業チームが参加し、展示を行っている。今年の参加チームは80チームを超え、来場者数も専門家は約4,300名、一般来場者は約9,000名と、去年を大きく上回る来場者数となった。4月6日から4月8日までの3日間は主にVRに関する専門家が来場し、後半の2日間は一般公開され、地元の家族連れを含め多くの人が来場した。

Laval Virtualは、日本で毎年開催される学生対抗バーチャルリアリティコンテストIVRCと提携しており、IVRCに参加し

た日本の学生チームもいくつかが Laval Virtual に参加している。今年は、電気通信大学による、自分自身を抱きしめることができる Sense-Roid、豊橋技術大学の、カーテンに住む生物 HINOCO、そして大阪大学の髭剃り体験デバイス JoryJory が、IVRC からの出展となった。会場では、必ずしも来場者が英語を話せるわけではないので、地元の高校生アシスタントが数名各ブースに付いて、フランス語によるサポートをいただいた。また、今年はデモンストレーションのみならず、口頭発表の場も設けられた。口頭発表は、VRIC という専門家向けの学術会議のシンポジウムの一つとして行われた。英語による発表は初めてであったため、貴重な体験をすることができたと共に、他の作品のコンセプトや研究背景を知ることができた。

また、Laval Virtual では Laval Virtual Award というコンテストが行われ、専門家で構成される国際的な審査員団により審査が行われ、高度な技術力と判断された作品に対しては賞が贈られる。今年は、Sense-Roid が“Architecture, Art & Culture”の部門で受賞を果たした。グランプリには、東京大学の Invoked Computing が選ばれた。受賞を果たした作品はどれも革新的で、私も非常に刺激を受けた。

Laval 市は、フランスの中心街パリとは異なり、非常に落ち着いた雰囲気のあるヨーロッパ地方都市であり、つい写真を撮りたくなるような景色の広がる街である。朝には、マルシェ(市場)が教会の周辺で行われ、果物や野菜などが売られている。Laval Virtual の会場は、丘のちょうど頂上に位置し、Laval 駅から歩いていくと、石畳のヨーロッパの街並みを楽しみながら会場に行くことができる。

本記事読者の皆様も革新的な技術の展示や、Laval 市の美しさを堪能しに、是非とも Laval Virtual への参加をお勧めしたい。

5. 審査について

審査委員長

岩田洋夫 筑波大学

副委員長

武田 博直 株式会社セガ

審査員

稲見昌彦 慶應義塾大学
 内田まほろ 日本科学未来館
 大倉典子 芝浦工業大学
 草原真知子 早稲田大学
 串山久美子 首都大学東京
 五味裕章 NTT コミュニケーション科学基礎研究所
 佐藤誠 東京工業大学
 白井暁彦 神奈川工科大学

関昌充 関特許事務所
 塚本昌彦 神戸大学
 中谷日出 NHK 解説委員
 デジスタナビゲータ
 福本雅朗 NTTドコモ先進技術研究所
 星野准一 筑波大学
 前田太郎 大阪大学
 森山朋絵 東京都現代美術館

<講評>

IVRC 審査委員長・筑波大学教授 岩田洋夫

岐阜で決勝大会を行わなくなったために、作品の完成度を上げるためにはプレゼン審査の果たす役割が大きくなった。そこで今年は、従来 90 秒だったプレゼン時間を 2 分 30 秒に伸ばし、プロトタイプ持ち込みを推奨した。その結果、多くのチームが実機またはビデオを紹介し、プレゼン内容の具体性が一挙に向上した。その点においては、充実した審査会になった。

決勝大会では 17 人の審査委員が参加し、技術系はもちろんアート系審査員も極めて充実した顔ぶれになった。審査方式は例年と同様に、各審査員が全作品に順位を付け、それに基づく席次点を付けた。その結果、受賞した 3 作品

は 4 位以下に差を付け、その結果も全審査員の同意を得るものであったため、この席次点のシステムは有効に機能した。優勝を勝ち取った「ペタンコ麺棒」はバーチャル物体をローラーで引きのぼす感覚が、視覚的にも力覚的にも楽しめるものである。特にローラーに仕込んだ多数のモーターが良好に機能しており、内部を幾つかのモジュールに分割し、故障個所が簡単に交換できるようになっている設計も秀逸であった。本作品は Laval Virtual 賞と未来観客賞のトリプル受賞となり、審査員のみならず、幅広い人々に受け入れられるものであった。

2 位の「HOJI*HOJI」は、バーチャルな虫を穴からほじくり出す感覚を出すために、多数のアクチュエータを集積したデバイスを作った。指全体で直接触った感覚を創り出すのは、大きな困難が伴うが、それに果敢に挑戦した作品である。3 位の「ミライデア」は、実物の本と鏡と映像の3者の組み合わせがうまく、昨今伸び盛りの複合現実感技術を、巧みに見せていた。

IVRCに登場する作品の技術的水準が高まっているのは過去の審査講評で何度も言及しているが、その次のステップとして、「何だ、これは？」と考えさせる問題作の登場を期待する、ということを数年前の学会誌において指摘した。今年は特にプレゼン審査において、物議を醸し出すという意味で、問題作の多い年であった。震災直後という時節柄好ましくないテーマや、安全性などの点で問題があったが、それよりも、優れた問題作とは何か、を改めて考えさせることになった。アートの世界では、体制や社会に対する批判を込めた問題作が多いが、それらが成功するためには、多くの人に共感を得なければならない。強烈な問題提起をしつつ、うまく社会のトレンドを昇華した作品が、評価を得て成功するわけである。そのような問題作を、IVRCにも是非期待したい。

6. 審査結果

- ・ 総合優勝 Grand Prix * 副賞 30 万円 (SIGGRAPH 研修旅費として) + SIGGRAPH 出展投稿サポート
「ペタンコ麺棒」 チーム:アシカくん 慶應義塾大学
- ・ VR 学会賞 * 副賞 10 万円
「HOJI*HOJI」 チーム:H*P 電気通信大学
- ・ 岐阜 VR 大賞 * 副賞 10 万円
「ミライデア」 チーム:team moulin 東京大学
- ・ Laval Virtual Award * 副賞トロフィー + Laval Virtual 2011 (フランス) 学生コンテスト招待
「ペタンコ麺棒」 チーム:アシカくん 慶應義塾大学
- ・ 川上記念特別賞 * 副賞 1 万円
「猫かぶる」 チーム:team ω 首都大学東京
- ・ 審査員特別賞 * 副賞 1 万円
「Light'n' Gadgets」 チーム:sci-team University of Technology of Compiègne
- ・ 未来観客賞 * 副賞 1 万円
「ペタンコ麺棒」 チーム:アシカくん 慶應義塾大学
- ・ DCEXPO ConTEX 賞 * 副賞 DCEXPO/ConTEX 招待
「ペタンコ麺棒」 チーム:アシカくん 慶應義塾大学
「HOJI*HOJI」 チーム:H*P 電気通信大学
「ミライデア」 チーム:team moulin 東京大学
- ・ 企業協賛賞
ソリッドレイ研究所賞 * 副賞 特製ロゴプレート入り Kinect
「ミライデア」 チーム:team moulin 東京大学
クリスティ・デジタル・システムズ賞 * 副賞 ディズニーシーチケット
「I Shadow」 チーム:影ケバブ 神奈川工科大学

7. 開催データ

〈入場者数〉	2,415 名（決勝大会）
〈応募総数〉	86 企画
〈書類審査通過企画数〉	25 企画
〈プレゼンテーション審査通過企画数〉	9 企画
〈海外審査通過企画数(招待作品)〉	2 企画

8. 協力

〈協賛〉 コンテストの運営資金の一部は、下記の協賛企業からの協賛金に拠る。(50 音順)

株式会社アールアールジェイ
クリスティ・デジタル・システムズ 日本支社
株式会社クレッセント
株式会社シンテックホズミ
株式会社ソリッドレイ研究所
株式会社ビュープラス
株式会社ボーンデジタル
岐阜県

この場を借りて、多大なるご支援に感謝の意を表します。

9. IVRC 実行委員会／企画委員会

<委員長>

舘 暲 慶應義塾大学

<副委員長>

岩田 洋夫 筑波大学

武田 博直 株式会社セガ

<実行委員>

青木 孝文 IVRC OB/OG
安藤 英由樹 大阪大学
稲見 昌彦 慶應義塾大学
井村 誠孝 大阪大学
應和 春香 IVRC OB/OG
大倉 典子 芝浦工業大学
大谷 智子 東京大学
小川 博教 日本精工株式会社
梶本 裕之 電気通信大学
岸野 文郎 関西学院大学
木島 竜吾 岐阜大学
北村 喜文 東北大学
串山 久美子 首都大学東京
神徳 徹雄 産業技術総合研究所
小林 昌廣 情報科学芸術大学院大学(IAMAS)
斎藤 英雄 慶應義塾大学
櫻井 快勢 北陸先端科学技術大学院大学/
大日本印刷株式会社
佐藤 誠 東京工業大学
佐藤 克成 慶應義塾大学
白井 暁彦 神奈川工科大学
杉本 麻樹 慶應義塾大学
鈴木 真一郎 日本科学未来館
関口 大陸 株式会社ビュープラス
高橋 誠史 株式会社バンダイナムコゲームス

千原 國宏 大阪電気通信大学
塚本 昌彦 神戸大学
土屋 学 日本科学未来館
常盤 拓司 合同会社アライアンス・ポート
苗村 健 東京大学
中谷 日出 NHK 解説委員・デジスタナビゲータ
野嶋 琢也 電気通信大学
野田 陽 小笠原デザイン事務所
橋本 悠希 大阪大学
橋本 渉 大阪工業大学
長谷川 晶一 東京工業大学
廣瀬 通孝 東京大学
福本 雅朗 NTTドコモ先進技術研究所
古川 正紘 慶應義塾大学
星野 准一 筑波大学
細田 真道 NTT 東日本
前田 太郎 大阪大学
榊井 大輔 バンダイネットワークス株式会社
三武 裕玄 東京工業大学
南澤 孝太 慶應義塾大学
宮田 一乘 北陸先端科学技術大学院大学
柳田 康幸 名城大学
吉田 匠 IVRC OB/OG
脇田 玲 慶應義塾大学

<企画委員>

粟生 馨奈子 電気通信大学
岡崎 龍太 電気通信大学
岡部 浩之 電気通信大学
加藤 史洋 東京工業大学
家室 証 東京大学
坂井 拓也 神奈川工科大学
佐藤 未知 電気通信大学
須佐 育弥 東京工業大学
高橋 宣裕 電気通信大学
土田 隆太郎 電気通信大学
平野 実花 東京工科大学
平山 詩芳 慶應義塾大学

福嶋 政期 電気通信大学
松山 隼輔 電気通信大学
山川 隼平 電気通信大学
横山 牧 電気通信大学
吉川 博美 電気通信大学
吉元 俊輔 電気通信大学